

# 伊丹福音ルーテル教会 聖霊降臨後最終主日礼拝のしおり

## 2021年11月21日

### 前奏

#### 招きのことば：詩編 93 編

主こそ王。威厳を衣とし 力を衣とし、身に帯びられる。

世界は固く据えられ、決して揺らぐことはない。

御座はいにしえより固く据えられ あなたはとしえの昔からいます。

主よ、潮はあげる、潮は声をあげる。潮は打ち寄せる響きをあげる。

大水のとどろく声よりも力強く 海に砕け散る波。さらに力強く、高くいます主。

主よ、あなたの定めは確かであり あなたの神殿に尊厳はふさわしい。日の続く限り。

#### 罪の悔い改めと赦しのことば

**会衆：** 私たちは生まれつき、自分中心、わがままで、心の中に本当の愛のかけらもありません。思いとことばと行いで、まことの神を軽んじて、となりびとにも愛のない、神の御前に罪人です。神様、ほんとうにごめんなさい。

私たちは祈ります。私たちを救うため あなたがお与えくださった イエス・キリストによって、どうかあわれんでください。アーメン。（短い黙祷を持ちましょう）

**牧師：** 何でもおできになる神様は、あなたのすべての罪を赦すために、そのひとり子、イエス・キリストを十字架の上で死に渡してくださいました。ですから神様の御言葉をとりつぐ務めに任じられた牧師として、今、あなたがたに宣言 します。父と、御子と、聖霊のお名前によって、あなたの罪は赦されました。安心して行きなさい。**アーメン。**

#### 使徒信条

**われは、天地のつくり主、父なる全能の神を信ず。**

**われは、そのひとり子、われらの主、イエス・キリストを信ず。**

主は聖霊によりてやどり、おとめマリヤより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死して葬られ、

陰府(よみ)にくだり、三日目によみがえり、天にのぼり、父なる全能の神の右に座したまえり。生ける人と死にたる人とを審かんがため、かしこより再びきたりたまわん。

**我は聖霊を信ず、また、聖なるキリスト教会、すなわち聖徒の交わり、罪のゆるし、からだのよみがえり、かぎりなきいのちを信ず。 アーメン。**

## 祈り

愛とあわれみに満ちておられる 私たちの父なる神様、心から感謝をいたします。今朝も共に礼拝にあずかり、罪の赦しをいただき、新しいいのちをいただいて 一週間を始めます。

あなたは、弱く、移り気で、この世のことを優先して考えてしまう私たちを見放すことなく憐れんでくださいました。日々の暮らしの中で、あなたは私たちを導き、あらゆる災いから守り、更に隣人の力になれるように鍛えてくださいます。ここから私たちの一週間の歩みが始まります。新型コロナ・ウィルスの感染拡大を防ぐために、なお緊張感を保っていかなければなりません。その中でも 御手にゆだね確信をもって、あなたの子どもとして 安心して 生き生きと生きる日々を与えてください。

この祈りを、私たちの救い主であり 主である イエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。 **アーメン**

## 使徒書朗読：ヨハネの黙示録 1章4b-8節

今おられ、かつておられ、やがて来られる方から、また、玉座の前におられる七つの霊から、更に、証人、誠実な方、死者の中から最初に復活した方、地上の王たちの支配者、イエス・キリストから恵みと平和があなたがたにあるように。わたしたちを愛し、御自分の血によって罪から解放してくださった方に、わたしたちを王とし、御自身の父である神に仕える祭司としてくださった方に、栄光と力が世々限りなくありますように、アーメン。見よ、その方が雲に乗って来られる。すべての人の目が彼を仰ぎ見る、ことに、彼を突き刺した者どもは。地上の諸民族は皆、彼のために嘆き悲しむ。然り、アーメン。神である主、今おられ、かつておられ、やがて来られる方、全能者がこう言われる。「わたしはアルファであり、オメガである。」

## 福音書朗読：ヨハネによる福音書 18章33-37節

そこで、ピラトはもう一度官邸に入り、イエスを呼び出して、「お前がユダヤ人の王なのか」と言った。イエスはお答えになった。「あなたは自分の考えで、そう言うのですか。それとも、ほかの者がわたしについて、あなたにそう言ったのですか。」ピラトは言い返した。「わたしはユダヤ人なのか。お前の同胞や祭司長たちが、お前をわたしに引き渡したのだ。いったい何をしたのか。」イエスはお答えになった。「わたしの国は、この世には属していない。もし、わたしの国がこの世に属していれば、わたしがユダヤ人に引き渡されないように、部下が戦ったことだろう。しかし、実際、わたしの国はこの世には属していない。」そこでピラトが、「それでは、やはり王なのか」と言うと、イエスはお答えになった。「わたしが王だとは、あなたが言っていることです。わたしは真理について証しをするために生まれ、そのためにこの世に来た。真理に属する人は皆、わたしの声を聞く。」

**讃美歌 310 番**

1. 静けき祈りの時は いと楽し 悩みある世より われを呼びいだし、  
父のおお前に すべての求めを たずさえ至りて つぶさに告げしむ。
2. 静けき祈りの時は いと楽し、さまよいいでたる わがたまを 救い、  
あやうき道より 伴い帰りて、試むる者の 罣を逃れしむ。
3. 静けき祈りの時は いと楽し、そびゆるピスガの 山の高嶺(たかね)より  
ふるさと眺めて 登り行く日まで、慰めを与え、喜びを満たす。 **アーメン**

**説教：「真理に属する人」**

私たちの父なる神様と御子イエス・キリストから、恵みと平安が豊かにありますように祈りつつ、御言葉をとりつぎます。

本日は聖霊降臨後最終主日です。教会の暦では、一年の最後の週となります。イエス様は人類の罪を赦して、神の子とする救い主です。イエス様が教えてくださったひとつひとつを聞いてきた一年の後半の 26 週間が終わります。今朝はイエス様がどうして十字架につけられたのかがよくわかる聖書の箇所が開かれました。ピラトの尋問です。使徒信条の中で、「ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け」と告白しています。どんな苦しみをお受けになったのでしょうか。

それは、救い主であるイエス様が苦しみを受けた、ということですね。イエス様が神の御子としてご自分の国であるこの世に来られたのに、悲しいことに、せっかくのイエス様を人々は受け入れませんでした。それどころか、イエス様を十字架につけて殺してしまいました。神様から救い主として遣わされたイエス様を、人々は殺してしまったのです。

イスラエルの民は「イエス様を十字架につける、殺せ！」と叫びました。それはユダヤ人の指導者たちがイエス様をとらえて、パレスチナ地方を管轄とするローマ総督のピラトのもとに連れて行ったときのことで、そして、総督ピラトがイエス様を十字架につける決断をしました。イエス様が十字架につけられた理由はなんだったのでしょうか。

民はイエス様を十字架につける！と叫びました。それは、イエス様が自分たちが期待していた救い主ではなかったからです。確かに救い主を待っていました。しかし、イスラエルの民が待っていたのは、ローマ帝国の属国となってたくさんの税金を払い、支配を受けていた自分たちの救い主として、この世で戦って偉大な王となり、ローマ帝国から自由にしてくれるメシアでした。イエス様が人類の罪を赦して神の子としてくださるための救い主だとは誰も期待していませんでした。イエス様の一行がエルサレムに来た時、ついに時が来た、と思って、都にいた人々は喜んで迎えました。しかしどうもそのような気配はありません。ですから、ユダヤ人の指導者たちがイエス様を十字架につける、と叫んだとき、彼らも大声で十字架につけてしまえ、と大声で合唱したのです。ローマ総督のポンテオ・ピラトはこの声に圧倒されました。

地上に神の国を再建してくれる王様になるだろう、とイエス様に期待してたのは、民たちだけではありません。イエス様に付き従った弟子たちもそう見込んで、イエス様に従いました。

皆さんはいかがでしょう。神様に何を期待しているのでしょうか。この世の生活の安定でしょうか。この世で生きる心配や苦しみから救っていただくことでしょうか。神様はあなたを見捨てず、あなたを見放しません。しかし、あなたはご自分の期待通りに神様が助けてくださらないと、イエス様を受け入れず、イエス様に背を向けてしまいますか。自分中心でいる人にとって、神様は自分の利益のために利用できる間だけ価値のある存在なのでしょう。イエス様の与えてくださるのはこの世の幸いを高く超えた祝福です。イエス様は驚くべきことに、そのことに気付かない私たちのわがままな心を赦して、神の子のいのちを与えるために来てくださったのです。

イエス様は父なる神様から遣わされて、クリスマスに人として生まれてくださいました。ヨハネによる福音書一章でバプテスマのヨハネが紹介したようにイエス様は「世の罪を取り除く神の小羊」です。また三章では、ユダヤ人の指導者ニコデモの訪問を受けたイエス様が「モーセが荒野で青銅の蛇を上げたように人の子も上げられなければならない」と言われ、十字架にかけられて死なれることを予告しました。さらに十章では、イエス様はご自分がよい羊飼いととして、羊が助かるためにご自分の命をお捨てになることを予告されました。誰もわたしからからいのちを奪うことはできない、むしろご自分で命を捨てる、と言われました。それは羊のような者である私たちが、イエス様によって命を得、それも豊かに得るためです。イエス様は父なる神様から遣わされて、人々の罪を背負って十字架の上で死んでくださるために来てくださいました。神様はイエス様を信じる者の罪を赦し、神の子となる特権を与えてくださいます。

イエス様を十字架で殺すことに成功したユダヤ人の指導者たちはどうだったのでしょうか。ユダヤ人の指導者たちは、イエス様が父なる神様から遣わされた神である、と自分でおっしゃっていることに、大きな危険性を感じました。それで、せっかくイエス様が人類の罪を赦して神の子にするために来られたのに、喜ばず、また受け入れることがなかったのです。彼らにはどうしてもイエス様を殺さなければならなかった二つの理由がありました。

第一に、イエス様を神様として信じていませんでした。イエス様はよいリーダーです。しかしただの人間であるイエス様が、自分のことを神様である、と自称するのは行き過ぎです。人々は惑わされています。旧約聖書の律法によると、神様を自称する冒瀆の罪は、罰として石打ちの刑を受けるべき大きな罪でした。現に、ヨハネによる福音書では八章と十章でユダヤ人の指導者たちがイエス様に向かって石を投げようとしています。

第二に、ローマ帝国との関係があります。ヨハネによる福音書十一章で、イエス様がラザロと言う青年を死からよみがえらせました。死人をよみがえらせる、誰にもできないみわざを見て、多くの人々がイエス様を救い主である、信じました。これが無視できない社会運動になったとき、ユダヤ人の指導者たちは緊急に国会を開いて相談をしました。なぜ、国家的危機と考え

たのでしょうか。それはローマ帝国への謀反の運動だからです。ローマ皇帝を神様とあがめなければならぬ社会で、イスラエルの人々はユダヤ教を許され、神殿での礼拝を認められる特権を何とか与えられていました。しかし、イエス様をイスラエルの民が自分たちの王として仰ぐことは、皇帝の権威に逆らうことで、皇帝はローマ軍を派遣して武力的な総攻撃で謀反を鎮圧するでしょう。ユダヤ人の指導者はイスラエルの国が滅びてしまう、と恐れたのです。民を破滅から守らなければならないと真剣に協議しました。ユダヤ人の中での石打ちの刑では不十分です。ローマ帝国の中で生き延びるためにはイエス様のいのちを差し出すことです。反抗的なイエス様を内部告発して、イスラエルの従順さを示す以外ありません。ローマの権威によって裁かせて、ローマの死刑の道具である十字架で葬ってもらうのです。ユダヤ人の指導者たちは、イエス様を、ローマから派遣されていた総督のポンテオ・ピラトに差し出しました。

さて、ユダヤ人の指導者たちや、イスラエルの人々がいくら計画しても、叫んでも、ポンテオ・ピラトが首を縦に振らなければイエス様は十字架につけられることはありませんでした。今朝読まれた箇所では、ポンテオ・ピラトはユダヤ人の中の問題にあまりかかわりたくない感じを受けます。イエス様をとらえて連れてきたユダヤ人の指導者たちに対して、何の罪でローマの総督の私に引き出したのか、自分たちで裁いたらいいのではないかと、と言っています。ユダヤ人の指導者たちは、今の法律では総督しか人を死刑にできないと答えます。そこでピラトはイエス様とふたりになって、あなたはユダヤ人の王なのか、あなたはユダヤ人の指導者たちがあなたを私に引き渡すようなどんな悪いことをしたのか、と尋ねます。イエス様は決定的なことをお答えになります。私の国はこの世に属する国ではない、真理の国である、と言うのです。ここでイエス様は、ご自分がこの世の国の王として来られたのではない、と明確に語られました。ユダヤ人の指導者たちは誤解しているのです。また、イスラエルの人々や、またイエス様の弟子たちさえも、イエス様に間違った期待をもっていたのでした。イエス様はご自分が真理を証しするため、神様の御心をするために世に来られたことをピラトに語りました。ピラトは、何だ、その真理とやらは、と言いました。

このあと、ピラトはイエス様を釈放しようと何度も民に提案します。ユダヤ人のお祭りだから、ローマは恩赦をひとりに与えていました。ピラトは言いました。わたしはイエス様には何の罪もないと思う。イエス様を赦そうと思う。そう言うとき聞いていた民は、イエス様ではなく、強盗のバラバを赦せ！イエス様は釈放するな！と叫んだのです。

ピラトはそのあともイエス様を釈放しようと努めました。しかし、ユダヤ人の指導者はピラトに言います。もし自分を神の子と自称しているこのイエス様をあなたがたが釈放したなら、あなたはローマ皇帝を裏切ることになります。ピラトは、あなたたちの王を、わたしが十字架につけるのか、と聞くと、人々は十字架につける！と叫び、祭司長たちは、私たちに皇帝のほかには王はありません、と答えました。ピラトはこの声に負けて、イエス様を十字架につけることを決めました。

ローマの総督であるポンテオ・ピラトは、イエス様に罪を見出さず、イエス様を釈放したいと思っていたのに、もし釈放したらローマ帝国での自分の総督としての立場が危うくなるということがわかると、イエス様を十字架につけてもよい、と決断しました。真理に従って決断できませんでした。そこがピラトの弱さであり、ピラトの罪でした。

さて、そのようにしてイエス様は十字架につけられて、死んでくださいました。しかし不思議なのはイエス様がご自分が十字架にかけられて死ぬことをご存じであったこと、いや、それ以上に、自分が来たのはそのためである、とおっしゃっていることです。神様は、イエス様を世に送ったら、人々は受け入れないで殺してしまうだろう、とご存じでした。何と、そのイエス様の命の犠牲によって、殺した人々の罪を赦すこととなさったのです。これが神様の真理です。イエス様は人々の自己中心や、ピラトの自己保身のゆえに犠牲になって死んだかに見えるのですが、真理とは、イエス様がそのようなどうにもならない世の罪を取り除く神の小羊として、来てくださったということです。かつて旧約聖書の民に神様は、やがて来る救い主の前触れとして、朝と夕に一歳の小羊を殺して焼きなさい、と言われました。人の罪はそれほど大きくて、いのちをもってでしか償うことはできません。イエス様は世の罪をすべてご自分の身に負って、いのちをもって償うために来てくださった救い主です。イエス様は、人の子も上げられなければならない、と言って、石打ちではなく十字架で死なれることをお話になっていました。

あなたやわたしは自分で自分の自己中心を治すことはできません。振り返ってみると、私たちは毎日、何度も何度もイエス様を十字架につけてしまっているような、どうしようもない罪びとです。イスラエルの指導者のように、この世にある自分の立場や職務の上での責任や世の中で正しくあるべきことにだけ注目して、救い主を受け入れることがありません。民のように、自分の期待の通りにならないと、簡単にイエス様から心が離れます。ピラトのように、正しいとわかっていることよりも、人々からの評判を失ったり自分の立場を失ったりすることを恐れて、まちがったことばや行いをしてしまいます。

今日は、教会の暦の最終の主日です。最終的に真理とは、私たちの罪を赦し、あたらしい命を与えるために、すなわち、この世にはない贈り物を与えるためにイエス様が来てくださったことです。自分の罪深さを認め、その私のせいで、そしてその私のためにイエス様が十字架で死んでくださったことを信じましょう。私たちの世にある毎日は、イエス様によって罪赦された神の子として、仕事や職務において人を赦し、人を生かし、人と共に成長していきます。自分の期待をなんでも祈ることによって神様に知っていただきますが、最終的には浅はかな自分の思いではなく、すべてをご存じの神様の御心が自分の上になるようにと安心して祈ります。私たちは本能的に自分の立場を守りますが、真理に属する者として喜んで犠牲をはらって正しく生きていきます。この一週間が、この世が与えることのできないイエス様の贈り物、罪の赦しの平安と、新しいいのちの躍動をいただき、神様と人々を愛し喜ぶ究極の一週間となりますように互いに祈りましょう。

そこでピラトが、「それでは、やはり王なのか」と言うと、イエスはお答えになった。「わたしが王だとは、あなたが言っていることです。わたしは真理について証しをするために生まれ、そのためにこの世に来た。真理に属する人は皆、わたしの声を聞く。」ヨハネ 18:37

人知をはるかに超えた神様の平安が、あなたの心と思いをキリスト・イエスにあつて守ってください。アーメン

### **讚美歌 273A 番 献金 献金感謝の祈り**

1. わがたましいを 愛するイエスよ。波はさかまき 風 吹き荒れて  
沈むばかりの この身を守り 天(あめ)の港に 導きたまえ
2. われには外(ほか)の 隠れ家あらず 頼る方なき このたましいを  
委ねまつれば みいつくしみの 翼の陰(かげ)に 守らせたまえ
3. わが身は全く けがれに染めど 君はまことと 恵みに満ちて  
われの内(うち)を ことごとく 潔め 疲れし霊(たま)を 慰めたまわん
4. きみは生命の みなもとなれば たえず湧き出で ころろにあふれ  
我をうるおし 渴きをとどめ とこしえまでも やすきを賜(たま)え **アーメン**

### **主の祈り**

天にましますわれらの父よ、願わくはみ名をあがめさせたまえ。みくにを来たらせたまえ。みこころの天になるごとく地にもならせたまえ。われらの日用の糧を今日も与えたまえ。われらに罪をおかす者をわれらが赦すごとく、われらの罪をもゆるしたまえ。われらを試みにあわせず、悪より救い出したまえ。国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。アーメン。

### **頌栄：讚美歌 543 番**

主イエスの恵みよ、父の愛よ、御霊の力よ、あぁみ栄えよ **アーメン**

### **祝福の言葉**

仰ぎこいねがわくは、私たちの主、イエス・キリストの恵み、父なる神の愛、聖霊の親しきお交わりが、御前に集う一同とともに、今日も、この一週間も、いく久しくとこしえまでも、豊かにありますように。 **アーメン**

### **後奏**